



2011年5月号

~大阪薫英女学院だより~

Kun-ei Information

大阪薫英女学院中学校高等学校
企画広報部 発行
〒566-8501 摂津市正雀1-4-1
TEL(直通): (06)6381-0335
FAX(直通): (06) 6381-5382
E-mail: kikaku@kun.ohs.ac.jp

2011年度体育祭

燃えろ! 我等の魂!



2011年度の体育祭、途中、雨が降り中断もありましたが、何とか最後のプログラムのマイムマイム(全校生徒全員によるフォークダンス)までこなすことができました。生徒の方は今年の体育祭のスローガン「燃えろ 我等の魂」のもと、天候を跳ね返すほどのパワーをだして練習の成果を発揮していました。薫英の体育祭は個人競技の種目はほとんどありません。大縄とび、4人5脚、くるくるターン(むかで競争の改良型)綱引きなどに代表されるように個人の技量が問われるのではなく、チームワークが問われる種目です。練習を重ねて、クラスがまとまればまとまるほど得点力がアップする、クラス全体でつくりあげていく体育祭です。今年、優勝したのは、高校は2年6組、中学は3年C組でした。



大縄跳び



4人5脚リレー



100mリレー



くるくるターン



綱引き



=先輩たちの合格体験記 Vol. 2=



今春の大学入試で合格を勝ちとった先輩たちの合格体験記です。今回は、国際科SEコースのM. Iさんと普通科文理コースのH. Kさんです。みなさんも是非、参考にしてください。

立命館大学 文学部人文学科国際プログラム

国際科SEコース卒業 M. I

私は、第一志望である立命館大学の模試結果はいつもE判定でした。そんな私が合格できたのは、自分の努力はもちろんですが、周りの人々の支えがあってこそだと思います。確かに、勉強することは時に辛いことです。実際に、私の成績は思うように伸びず、悔しくて泣きそうになることを何度も経験しました。しかし、薫英にはあきらめずに努力を続けることができる環境がありました。学校でゼミを受けることで、友達と常に一緒に、刺激し合いながら勉強することができました。また、ゼミの合間や終わった後にも、先生に質問することで、その日の疑問をその日のうちに解決することができました。私の頑張りを認め、応援し、支えてくれる人々がそばにいてくれたことで、その人たちのためにも自分にできる最大限の努力をしようと思えました。努力すれば、必ず何らかの形で返ってくる。私の場合はそれが「合格」でした。そして、その結果と一緒に頑張った友達や先生、支えてくれた人々が喜んでくれたことが、私にとっては合格と同じくらい嬉しく思いました。この受験で、私は人生の中で一番の努力をしました。朝7時30分から夜7時まで学校で勉強し、毎日疲労と眠気に耐えながら、一日も欠かさず登校しました。本はボロボロになり、ペンも何本使いきったか分かりません。こうして最後まで頑張りがぬいたことは、私の自信につながりました。大学でも努力を怠らず、私なりに楽しんで頑張っていこうと思います。

関西大学 社会学部社会学科社会学専攻

普通科文理コース卒業 H. K

私が大学受験を考えるようになったのは、二年生の最後にした担任の先生との二者面談からです。そこで言われたことは、このままでは指定校推薦や難関大学を目指すことは厳しいということでした。それまでは、大体の志望校は固めていましたが、部活や行事に取り組む事に精一杯で、正直受験勉強や大学について深く考えた事がなく、二年生の最後の模試の総合偏差値は45程度でした。面談後も今から何をどうすればいいのかわからないまま、三年生になり、私はとりあえず1、2年生ではサボりがちだった授業中の小テスト、定期テストの勉強を必死で頑張りました。それでも校内で行われる模試では第一志望は常にE判定でした。しかし、夏休みの毎日の自習計画をきちんと具体的に立てて(英語の長文を3題解く!など)、ゼミやJトレにも毎日参加し、その結果、秋の模試ではやっとのことでC判定を出すことができました。冬休みも同じで、毎日学校に来て朝から晩まで勉強し、無事、一般入試で関西大学に合格することができました。大学受験を通して気付いた事は、やはり自分の目標を最後の最後まで諦めないことが大事だということです。勉強の成果はすぐには出ません。それでもやり続けることが必要です。できるなら、目標は早めに持っていたほうが勉強にも早くから身が入ると思います。そして、学校での授業を疎かにしないことが大事です。今、受験に向け具体的に何をしたら良いかわからなければ、新しい参考書を買って満足するのではなく、とにかく普段の授業に真剣に取り組むことから受験勉強に繋がります。頑張ってください!